インターバンクの声（2017 年 10 月 13 日）

ニューヨーク市場の朝方に発表された 9 月の米生産者物価指数が市場予想通りの結果で、週間新規失業保険申請件数も予想より良好だったことから「ドルが大幅に上昇した」と記したいところだったが、結局この時の 112 円 45 銭が昨夜のドル高値だった。

次期 FRB 議長の有力候補の一人とされるパウエル FRB 理事の講演や 20 カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議が控え、翌日にも米小売売上や消費者物価指数の発表があり、一方的にドル買いを続けるわけには行かなかったようだ。

さらに市場が敏感に反応する米金利も上げ下げを繰り返し、特に午後の米財務省 30 年債の入札が好調で金利が低下したことや株価が下落に転じたことも加わり、終盤は 112 円 10 銭台までドル売りが進む場面もあった。

それでも 112 円を割り込むほどドル売りに勢いはなく、今晩の米経済データを確認するまでこれまでのレンジの外には動きそうもない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社
お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。
本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。